

景気判断

2カ月連続据え置き

4月
月例報告

悪化テンポ緩和期待

政府は十七日、景気の基調判断を二カ月連続で据え置き、「急速な悪化が続いており、厳しい状況」とした四月の月例経済報告を決めた。ただ輸出と公共投資については判断を上方修正したほか、景気の先行きについても悪化テンポが緩むとの期待を明記。景気はなお厳しい状況にあるものの、「（昨年秋以降の）急激な落ち込みが続く可能性は低下している」（内閣府）との判断を映した内容となった。

与謝野馨財務・金融・経済財政相は関係閣僚会議後の記者会見で、景気の現状について、消費者心理の改善などを示す指標が出ているものの「底打ち感を持つにはいたっ

景気の基調判断

基調判断

2008年	10月	景気は弱まっている
	11月	景気は弱まっている。世界経済が一段と減速する中で下押し圧力が急速に高まっている
	12月	景気は悪化している
09	1月	景気は急速に悪化している
	2月	景気は急速な悪化が続き厳しい状況
	3月	同上
	4月	同上

(注) 判断変更の▲は下方修正、
➡は据え置き

ていない」と述べ、慎重な見方を改めて示した。景気判断に使う主な十二項目を上方修正した。

個別項目を上方修正したのは二〇〇八年三月以来、一年一カ月ぶり。輸出は二月の数量指数の減少率が鈍化したことから判断を上方修正。公共投資も補正予算の影響で〇八年度の公共工事請負金額が十年ぶりに増加に転じ、判断を引き上げた。一方、業況判断は三月の日銀企業短期経済観測調査（短観）が過去最も悪の内容となったのを受け、判断を下方修正した。先行きについては「在庫調整が進展するにつれ悪化のテンポが緩やかになっていくことが期待される」と明記。在庫調整が進み、生産持ち直しにつながる可能性を示した。一方で、景気がいったん底入れした後、再び悪化する「二番底」の懸念も指摘した。